

こども・子育て会議 要録(令和7年度 第1回 令和7年6月26日)

区分	内容
1. 開会あいさつ	
子ども・健康部林部長、脇田委員長あいさつ	
2. 自己紹介 事務局のみ	
3. 議題	
(1) 小郡市こども計画(概要版)について	
事務局	「(1)小郡市こども計画(概要版)について」説明
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか
委員	大人の視点からは分かる。使っている漢字は4年生以上なら分かる想定なのか。特にヤングケアラーの部分等、子どもが見て分かるよう今後工夫をお願いしたい。
事務局	なるべくわかりやすい表記になるよう漢字を極力減らして作った。ふりがなを付けたがわかりにくくなったため、音声コードにしたので活用してほしい。表記について今後は気をつけたい。
委員	音声コードをわざわざ読み取って読むだろうか。子ども達はタブレットに配信してもわざわざは見ないのでは。動画とかだったら分かりやすいと思う。休み時間でも見るかもしれない。
委員長	学校の協力が必要。学校でも見る時間をつくってもらいたい。
委員	学校に行っていない人は見ないのではないか。これを渡すだけでは保護者も子どもにも説明出来ないだろう。大人が伝えるトレーニングも必要かもしれない。一緒に成長していけたらいいねというイメージがあると親も一緒に学べるかと思う。
委員長	学校運営協議会(コミュニティスクール)でも周知すると、地域の方にも関心を持ってもらえるのでは。
委員	保護者への配布予定はあるのか。
事務局	HP から見られるようにしている。配っただけでは見てもらえないのではないかと思うので、市内5ヶ所の子育て支援センターで、生きた情報を届ける場を設けてもよいかも。
委員	動画のQRコード1枚だけを配るのがいいのではないか。
委員長	PTA に紹介しては。
(2) こどもの権利条例の策定に向けたスケジュールについて	
(3) ワークショップ(こども・ジュニア・ユース)の実施について	
事務局	「(2)こどもの権利条例の策定に向けたスケジュールについて (3)ワークショップ(こども・ジュニア・ユース)の実施について」説明
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか。
委員	ユーストークベースはオンライン、Zoomになっているが、高校生は環境的が整っているのか。
事務局	オンライン環境が整っていない子もいるかもしれない。
委員	あすてらす等にパソコンを準備して、オンライン参加できる場所を整えては。
委員	特別に日を設けてやる意義がよく分からない。言いたい子だけ集めて話を聞くより、

	来られない子、言えない子の意見を聞くことも大事だと思う。イベントで終わるのではなく、今ある環境の中で声を集約するやり方でもいいのでは。各学校で声を拾っていくという作業をやった方が色々な意見を集約できると思う。
委員	案内を配布しても昨年度が5~3人のみ。参加した子はものすごく意欲のある子だと思う。ある場所に来てくれるとか出張してきてくれるといいのかも。
委員長	子どもが意見を言えるというのはどういうものか。 具体的なイメージが見えるものを配信するというのもいいのでは。
事務局	こどもの意見聴取の方法については迷った。昨年やってみて、子ども達の所属の中では発せられない中で聞こえた意見もあった。実は誰にも言えない話だけど・・・と言って話してくれた。多くの子の声を集約することも考えたが、心理的安全性を確保出来ることを中心に考えてみた。 これで十分だとは思わないが今回やってみて、声を聞くやり方として考えたい。高校生については別に声を聞く方法を考えてみたい。
委員	あすてらすで夏休みに設定した理由は何があるのか。場所的にあすてらすは、なかなか集まらないのでは。夏休みの勉強をしに来ている子達に聞くとかなら分かるが、コミセン等でも出来るのでは。
委員	あすてらすへの交通手段は？ 親に送ってもらう事になるのでは、親にも言えないことの表明にはならないのでは。
委員	子だけで校区外に出たらダメと言われている。校区単位でやるのもいいのでは。
委員	これは子どもの権利条約の批准に伴うもので、もっと大きな話ですよ。小郡市の権利条例をつくるためのものなので、上位段階の整理をしないと。 学校に協力してもらう立場ではなく、学校教育が子どもの意見を拾わないといけない立場。こども子育てだけでやるものではなく各機関がやること。 トークベースで全ては網羅出来ない。色んなところで子どもの意見を言う場があるということを周知することが一番大事で、その一つとして1回この方法でやってみようというもの。もっと大きく捉えて動かないといけない。
委員長	やってみないと分からない。どの方法がいいのかは探らないと。子ども達に自分の意見を言う場があるということを周知してもらう。お手紙だったら書けるという子もいる。色んないくつかのコミュニティセンターを使うのもいい。
委員	高学年はZoomを使える。顔が映らないと本音の声が聴けるかも。
委員	去年のワークショップで親にも言えないことを言えた子が、その後どう過ごしているんだろうかと思う。何かにつながったのか。大人に言ってもその後何も返ってこない。安心する手段を一緒に考えてくれない。せっかく大人に伝えたい事を伝えてくれた子へ、その後どうするのか考えはあるのか。
委員長	次の会議でこんなことをやってみたとか、次の考え等聞かせてもらいたい。
事務局	トークベースで全ての子どもの意見集約出来るとは思っていない。権利条例を目指すにあたって、トークベースは大事にし、一方で子ども達の幅広い意見集約について学校分野との協議も必要。場所を作ることに集中して来てくれた子のフォローまでは考えが至っていない。課題だと思うのでしっかり考えていきたい。7月8月は一旦この形でやってみたい。

4. 意見交換	
子どもの居場所づくりについて	
委員長	子どもの居場所づくりについての考えは。
委員	ポータルサイトはどうやって掲載出来るのか。
事務局	市から情報提供すれば県で掲載可能。
委員	資料「子どもの居場所づくりについて」で、子育て支援センターが一番はじめて入っていることに違和感がある。親子の居場所としては大事だが、親へのサポートの概念が入ってくると、子どもの居場所の観点が薄くなり大人寄りになる。 子どもの居場所は子ども主体の居場所のこと。子育て支援センターと分けて考えるべきでは。幼少期の事業が充実して学童期以降が抜けてしまう。 居場所づくりの中で一緒に語るのは違うのでは。子どもの居場所づくりは大事。 やっている方は一生懸命になっていても、子どもの居場所になっていない事もある。
事務局	大人と子どもの居場所を混同していた部分があったかなと思う。
委員長	障がいのある子の居場所もそれぞれ違う。学童期の子どもにとっての居場所は自分に役割があるかどうかによる。例えば子ども食堂でご飯を食べただけで居場所になっているかどうかわからない。配膳を手伝ってもらおうとその子に役割ができて初めて子どもが認められたことになる。与えられた場所が居場所なのかということを考えなくてはならない。
事務局	市内での居場所づくりの手法についての皆さんのご意見は。
委員	子どもの宿題を見てもわからないことがあり、宿題の相談を出来る場所があるといい。親以外の大人にアウトプットするのも大事だと思う。宿題問題は大きい、「丸つけるだけでいい。」といわれるが、小1年だと BB には行けない、学童は拘束されるから行きたくない等色々ある。家で一人で頑張ったあげく、親とバトルになることもある。第三者が関わってくれるといいと思う。
委員長	家に帰る前に「ただいま」と言って寄り道できるところがあるといい。昔はそんな所もあった。地域のコミュニティでおじいちゃんおばあちゃんが宿題を見てくれるとか。安心してみてくれる所があるといい。
委員	コミュニティセンターは夏休みには開放されているが、平日も開放されていたらいい。
委員	地域の公民館程度が一番ちょうどいい。地域の高齢者とふれあう場があるといい。裁縫を教えてくれるとか。宿題をしたり。
委員	裁縫が苦手な親も多く、入園時等に雑巾を縫っていかないといけない時に困っている人もいる。 高齢者とのふれあいは大事。味坂は高齢者と子どもの関わりがあり、横断歩道の見守りをしてくれたり、ラジオ体操を一緒にやっている。
委員長	子どもにどんな所があると嬉しいか聞いてみては。いじわるされない、安心できるというイメージかもしれない。
事務局	トークベースの中でも子どもの意見を聞いてみたい。
委員	以前、甘鉄高架下の自転車置き場でスケボーをする高校生が多数いたが、管理する大人が“大変だから”とスケボー禁止となり子ども達がいなくなった。今はオリ

	<p>ンピック競技となっていて、教えてほしい子たちが繋がればいいなと思っていた。三国幼稚園跡地も子ども達の集まり場所になっていたが、縦の繋がりができるかどうかの時期になくなった。</p> <p>味坂保育園の寺子屋は、ずっと繋がりを作りながら続いている。大人がしかけてはいるが自然な居場所になっている。バスケットコートがあるとか簡単なテーマがある場くらいがいいのかも。何をするかわからなかったら、集まらないかもしれない。筑前町の藁人形がある公園はバスケットコートがあり、子ども達が集まっている。そういう場所からコミュニティが生まれるといい。大人が関われば関わるほどねじれていく。</p>
委員長	<p>子どもに任せてみる。大人がさせるのではなく、役割分担をする。片付け、掃除、時間等を守ってもらって集まってもらう場等考えてみては。</p>
委員	<p>お金を払って行く場所は、居場所とは違うという感覚がある。いつ行ってもよくて誰かがいつもいるという場所で、自分で計画し失敗もしながら自分で動くのが居場所なのでは。</p> <p>体験イベント、座談会、個別相談会等も広報に載っていても結局親が申し込む。子どもからのアクションはわからない。</p> <p>寺子屋も繋がりはあるが毎日お金がかかるし、学童は人が多くうるさくて勉強に集中できない。</p> <p>居心地がよくていつ行ってもいい安心できる場所が居場所ととらえるなら、毎日行きたいけどお金がかかるしね・・・というのは引かかる。</p> <p>「ザ、場所提供」ということになるのかな。いつでもどんな時でもみたいなのが居場所なのかな。人によって居場所の定義が違うのかな。</p>
委員	<p>子どもに聞くのも大事。居場所という空間だけあっても意味はない。子どもの声を聞く人や危なくないように見る守る人の人材育成も必要だと思う。色んな思想の人もいるので必ず安全とは限らない。責任問題もあり主催者まかせでもいけない。高校生等がファシリテーターになるような人材育成を地域で試験的にやってみては。</p>
委員	<p>プレーパークが映画にもなっていたが、「ゆめパのじかん」とか、自分のいい時間に来て遊んだり、物づくりしたい子はそういう部屋があったり、やりたいことをやれる場所で過ごしている。その映画を見た子ども達は「楽しそう」と言っていた。</p> <p>市内に際限なく遊べる場所がなく、ここのプレイルームは小学生は入れない。0才～何歳でも来ていいよという場所が1つではなく、増えていけばいいと思う。</p> <p>育ち直しはいつからでもできるよというが、小学生時代に遊び足りない子は高校生位になって色んな事をしたくなって、それが親に理解を得られなくて。</p> <p>子どもの成長発達の欲求かなと思える大人が周りにいれば起動修正ができると思う。そういう小郡市であってほしい。</p>
委員	<p>公園が欲しい。小さい子の遊べるところはあるが、高学年の遊べる場所があるといい。市内にはないから週末は郊外に遊びに行く。おもいきり体を動かせる所が欲しい。</p>
委員	<p>田んぼを開放して欲しい。水さえあれば浴びて帰れる。</p>
委員	<p>公園でポンプアップを9時から行っているが、子どもは5時には誰もいない。</p>

	<p>水が 10 cmでも20cmでも溜まっていると誰かが見ないと子どもは危険。事故が起きた場合の責任問題もある。声がうるさいと言われることもある。</p> <p>居場所づくりを大人だけで出来るか、子どもだけで出来るかというのは、難しい話だと思う。教育センターで高齢者の関わりができないかと思ったが、子どもが一人だけだった。塾に行っている子もいるし難しい。</p> <p>テストでやってみて、ベターな所を考えていかなければ前に進まない。</p>
委員長	<p>場所、目的、周りの人材育成、いろんな子ども達がいるので、とりあえずやってみる事が大事。</p>
事務局	<p>色んなご意見ありがとうございます。トライ&エラーを繰り返しながら取り組んでいきたい。</p> <p>次回は9月開催予定。連絡がメールでよい方は、メールアドレス提供いただきたい。</p>
5. 閉会あいさつ	
副委員長	<p>こども計画概要版をいただいたが、小郡の特色をもっと出した方がいいというのが率直な感想。作っただけでは意味がない。いろんな意見を出しあっていく事が大事。</p>